

## 第 11 話：サバ缶ブーム期における輸入を含むサバ缶の供給動向

日本水産缶詰輸出水産業組合・日本水産缶詰工業協同組合  
専務理事 松浦 勉

「サバ缶詰を食べよう」シリーズでは、第 1 話が「テレビ番組によりサバ缶詰人気上昇」、第 2 話が「消費拡大に伴うサバ缶詰の新商品開発」、第 3 話が「中央水産研究所のサバ缶マニア」、第 4 話が「サバ缶詰を使ったご当地料理」、第 5 話が「レシピ本にみるサバ缶詰料理」、第 6 話が「サバ缶詰レシピ本の出版動向」、第 7 話が「レシピ本とテレビ番組がきっかけを作ったサバ缶ブーム」、第 8 話が「統計資料からサバ缶ブームをみる」、第 9 話が「サバ缶ブーム下における青物 3 魚種缶詰の販売金額の動向」、第 10 話が「サバ缶の調理方法別消費動向」についてお話しさせていただきました。第 11 話は、「サバ缶ブーム期における輸入を含むサバ缶の供給動向」についてです。

表 1 に、「総務省家計調査月報における魚介缶詰の 1 世帯当たり支出金額の推移」を示しました。表 1 によると、2017 年 9 月以降、前年比の魚介缶詰支出金額が増えていることから、サバ缶ブームはこの頃始まったといえます。直近である 2019 年 6 月には、魚介缶詰の 1 世帯当たり支出金額が前年比 113%なので、サバ缶ブームは継続していると思われます。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間合計
2016年	188	187	211	211	204	205	230	232	193	195	193	235	2,484
2017年	176	203	213	216	202	204	232	229	216	221	214	266	2,593
2018年	186	205	225	214	230	236	252	257	226	251	253	353	2,891
2019年	225	256	275	252	246	266							
前年比	121%	125%	122%	118%	107%	113%							

資料：日刊缶詰情報(東京食料新聞、2019年8月13日)

サバは例年、秋に太平洋北部海域（青森県沖～千葉県沖）で大中型まき網漁船によって大量に漁獲されます。2017 年 9 月以降のサバ缶ブームによって、日本国内のサバ缶消費量は増えましたが、2018 年秋（9 月～11 月）には時化と資源管理の厳守により、例年に比べてサバ漁獲量が少なかったため、缶詰原料となる生鮮サバの価格が高騰しました。缶詰会社が製造したサバ缶の小売業界への販売価格は、何年かに 1 度の値上げが一般的です。しかし、2018 年秋には、サバ缶需要の急激な拡大に伴い生鮮サバ価格が大幅に高騰したた

め、サバ缶の販売量が多い(株)マルハニチロでは、2018年10月~2019年3月にかけて異例の2回の値上げを行いました。

また、缶詰会社は、2018年秋に十分な生鮮サバを確保できなかったため、増加する需要に応えるだけのサバ缶を製造することができませんでした。このことが、日本の貿易商社等によるサバ缶の大量輸入を誘発することになりました。東南アジア関係国から日本へのサバ缶輸出は、これまで、あまり多くありませんでしたが、サバ缶価格の上昇によって、各国からのサバ缶輸入量が大幅に増加しました。

では、サバ缶の輸入状況はどうなっているのでしょうか。財務省貿易統計では、輸入サバ缶のコードが存在しません。サバ缶は、サバ調製品（コード番号が、1604.15-000）に含まれ、サバみりん干し、その他の製品と同じ輸入品として扱われています。表2に、「日本における東南アジア関係国からのサバ調製品輸入量（サバ缶を含む）の推移」を示しました。

単位：トン						
西暦年月	ベトナム	タイ	マレーシア	フィリピン	合計	
2018年	1月	17				17
	2月	128	63			190
	3月	6	82			88
	4月	84	67			151
	5月	130	106			236
	6月	182	24			206
	7月	219	231			450
	8月	368	376			744
	9月	153	463			616
	10月	418	724	32		1,174
	11月	315	799	31		1,145
	12月	277	1,030	47		1,354
2019年	1月	467	1,314	15	44	1,839
	2月	376	1,443	62	150	2,031
	3月	623	1,886	47	105	2,661
	4月	799	1,898	47	458	3,202
	5月	963	1,993	47	189	3,192
	6月	693	2,317	47	120	3,177

資料：財務省貿易統計

注1) サバ調製品（サバ缶を含む）のコード番号：1604.15-000

注2) 輸入量の計算式）= 2018年・2019年の輸入量）- 2016年と2017年の平均輸入量）

サバ調製品は、2019年にはタイ、ベトナム、フィリピン、マレーシアの順に多く輸入されています。これらの国々におけるサバ調製品輸入量は、2016年と2017年には増減があまり見られませんでした。2018年と2019年には大幅に増加しました。

このため、(2018年・2019年の輸入量)から(2016年と2017年の平均輸入量)を差し引いた増加分がサバ缶主体の輸入量に相関するとみなして、サバ調製品の輸入量からサバ缶輸入量を推測しました。東南アジア関係国では、サバ缶の原料に日本産サバを使用しています。なお、日本は中国と韓国からもサバ缶を輸入していますが、輸入量が少ないため、表2では両国を除きました。

表2により、東南アジア関係国のサバ調製品の合計輸入量をみますと、2018年6月までは200トンでしたが、2018年7月以降増加し、2018年10月~2019年1月が1,000トン、2月が2,000トン、4月が3,000トンになりました。

では、サバ缶は国内でどのくらい販売されているのでしょうか。表3に、「水産缶詰(マグロ・カツオ以外)の上位50品目における販売金額が多いサバ缶品目の推移」を示しました。表3では、「○」はサバ缶の品目であり、3か月ごとの推移を示しています。上位50品目に占めるサバ缶の合計品目数は、2018年1月が28品目でしたが、2019年4月には36品目に増加しました。

また、輸入サバ缶は国内でどのくらい販売されているのでしょうか。表4に、「水産缶詰(マグロ・カツオ以外)の上位50品目における輸入サバ缶の販売金額の順位と調理方法別サバ缶品目数(推定値)の推移」を示しました。表4の「水」はサバ缶水煮、「味」はサバ缶味噌煮です。2018年の1月~4月における2つの輸入サバ缶は同じ商品です。輸入サバ缶の品目数は、2018年5月が3品目、10月が6品目、2019年5月が13品目であり、新しい品目のサバ缶がどんどん増えています。

輸入サバ缶は調理方法が水煮と味噌煮の2つです。2018年4月までは「水煮」と「味噌煮」が1つずつ計2品目で推移していましたが、2018年5月以降水煮の比率が高くなりました。2019年5月には、サバ缶の合計品目数(36)に占める輸入サバ缶品目数(13)の比率が36%になり、輸入サバ缶のうち8品目が水煮でした。

表3. 水産缶詰 (マグロ・カツオ以外)の上位50品目における  
販売金額が多いサバ缶品目の推移

販売金額が多い品目の順位	2018年				2019年		
	1月	4月	7月	10月	1月	4月	6月
1	○	○	○		○	○	○
2		○	○	○	○	○	○
3	○	○	○				○
4	○	○	○		○	○	
5	○				○	○	○
6	○	○	○	○	○	○	○
7	○	○	○	○	○	○	
8	○	○			○		○
9	○	○	○	○	○	○	○
10	○			○	○	○	○
11	○	○			○	○	○
12				○	○	○	○
13				○	○	○	○
14		○		○	○		
15	○	○	○	○		○	○
16	○	○	○	○	○	○	○
17		○	○			○	○
18			○	○			
19	○	○	○	○	○	○	○
20	○	○	○	○	○		
21			○	○		○	○
22		○	○	○		○	○
23	○	○	○	○	○		○
24	○		○	○	○	○	○
25		○				○	○
26			○	○	○	○	
27	○					○	○
28	○			○			○
29	○		○	○			
30		○		○	○	○	○
31		○	○	○	○	○	○
32	○		○	○	○	○	
33	○	○	○		○	○	○
34	○			○	○	○	
35	○	○	○	○		○	○
36	○	○			○		○
37	○						
38	○		○		○		
39			○				○
40			○	○	○		
41		○	○	○	○	○	○
42			○	○		○	
43	○	○	○	○	○	○	○
44			○				
45	○	○	○	○	○	○	○
46		○		○	○	○	○
47		○		○	○	○	○
48		○	○			○	
49		○	○		○	○	○
50					○	○	○
サバ缶の合計品目数(A)	28	30	33	32	34	36	35

資料 :全国販売POSデータ (KSP-POS、缶詰時報)

表 4. 水産缶詰 (マグロ・カツオ以外) の上位 50 品目における輸入サバ缶の販売金額の順位と調理方法別サバ缶品目数 (推定値) の推移

販売金額が多い品目の順位	2018年												2019年					
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
1																		
2																		
3																		
4														水				
5																		
6																		
7																		
8																		
9																水		
10																		
11																		水
12														水				水
13													水			水	水	
14								水			水	水	水		水			
15																水		
16											水					水		水
17														水				
18							水										水	
19				水					水	水		水		味		水		
20													水					
21								水		水						水		水
22				味												水	水	水
23			水			水				水				水	水			
24													水	水		水		
25												水						水
26					水											味		
27															水	水	味	水
28																	味	水
29									水	水		味					味	
30									水	水			味			味		
31			味									水			水			
32												味	水		味	味		
33	水													味				水
34	味					味			味									
35				味												味		味
36												水	味		味			
37																	水	
38						味											味	
39							水											水
40								味		味			水					
41		味								味								味
42											水						味	
43													水				味	
44																	味	
45					味		味		味									
46																		味
47												水						
48																		
49		水												味				
50						水												
サバ缶の合計品目数(A)	28	28	33	30	33	33	33	36	34	32	36	32	34	31	33	36	36	35
うち、輸入サバ缶の品目数(B)	2	2	2	2	3	4	3	3	5	6	6	6	9	8	9	9	13	11
⑧)のうち、水煮品目数	1	1	1	1	1	2	2	2	3	4	4	5	7	5	6	6	8	8
⑧)/(A)の比率	7%	7%	6%	7%	9%	12%	9%	8%	15%	19%	17%	19%	26%	26%	27%	25%	36%	31%

資料 : 全国販売POSデータ (KSP-POS、缶詰時報)

注 1) 「水」: サバ缶水煮、 「味」: サバ缶味噌煮

なぜ、こんなに大量のサバ缶が輸入されたのでしょうか。日本国内には、サバ缶を製造する缶詰会社や、冷凍サバの輸出港が広域に分布しています。このため、表5に、「全国の産地市場におけるサバ類の数量と価格の推移」を示しました。サバ類（マサバとゴマサバの込み）の数量は、前述したように2018年9月～11月には前年に比べて少なく、2018年12月～2019年5月は前年並みとなりました。2018年12月までサバ類価格は高騰しましたが、この間に缶詰会社がサバ類を大量に購入しました。そして、2019年1月以降にサバ類価格が下がると、この間に東南アジア関係国へ缶詰用原料としてサバ類が大量に輸出されました。そして、東南アジア関係国が日本産サバを原料として製造したサバ缶が、日本の貿易商社等を通して大量に輸入されたためです。

表5. 全国の産地市場におけるサバ類の数量と価格の推移												
単位：数量 (ト)、価格 (円/kg)												
	2014年		2015年		2016年		2017年		2018年		2019年	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格	数量	価格
1月	58,906	107	55,111	88	53,416	70	44,081	86	77,898	85	74,581	115
2月	39,819	95	47,099	77	75,538	62	68,436	78	83,464	85	46,402	116
3月	32,848	104	62,387	67	54,585	69	65,242	71	47,457	75	47,680	93
4月	29,229	93	40,745	64	31,182	70	32,194	71	38,701	81	32,785	79
5月	19,461	98	16,341	71	15,170	88	20,557	75	29,677	79	35,922	78
6月	26,934	86	26,098	79	13,261	83	12,953	80	22,846	71	12,085	89
7月	16,944	93	17,045	77	13,904	84	11,925	94	17,691	73	5,493	128
8月	14,234	124	13,063	99	7,981	129	12,459	110	16,542	101		
9月	40,672	96	29,932	87	14,039	107	19,791	87	16,693	96		
10月	47,175	100	26,800	99	31,501	116	25,607	107	19,552	119		
11月	49,818	98	64,433	82	98,396	78	72,925	90	48,517	133		
12月	67,415	92	96,820	75	78,530	86	83,989	84	86,610	129		
合計	443,456	98	495,874	78	487,502	79	470,158	83	505,648	97		

資料：漁業情報サービスセンター  
注1) サバ類は、マサバとゴマサバの込み

今回は、「サバ缶とマグロ・カツオ缶における水煮・油漬の消費動向」について紹介します。